

## 中野市教育委員会指定文化財候補調査票

報告年月日：令和4年7月28日

調査者：吉澤政己

報告者：大滝敦士

## 1 種別

有形文化財

## 2 名称

小内八幡神社隨身門

## 3 員数

1点

## 4 所在地及び所有者・権原者

所在地：中野市大字安源寺 権原者：片山 求

## 5 内容

小内八幡神社(大字安源寺)に存在する隨身門である。平面規模は、間口6.7m、奥行2.8m。建築様式は、三間一戸、入母屋造り、棧瓦葺。

## 6 現状

現在、小内八幡神社宮司・片山 求氏が管理している。

## 7 由来・伝来

小内八幡神社に保存されている棟札によると、天保5年(1834)の造立で、大工棟梁は戸川峯蔵(越後国三島郡出雲崎町)、大工は番場元兵衛(新保村)、杣は平左衛門(岩船村)である。

随神門内の棟札には、「天保五甲午年八月上七日 奉造立之神並鎮座門 願主関佳六源忠恕(中野陣屋手付) 大宮司片山司之輔秀定代」とある。

「旧中野県管内附綴六川庁管内 高井郡 神社明細帳原本」(長野県立歴史館所蔵)には、「天保五午年中野御代官井上五郎左衛門(マ)随神門寄進建替有之候」「間口三間四尺(6.657m)・奥行二間半(4.545m)」とある。

※間=1.818m、尺=0.303mで換算

## 8 保存方法

現在地に所在。

## 9 その他参考事項

特になし。

## 10 保護指定についての調査者の意見

虹梁の絵様彫刻を透彫のようにつける手法から越後系の大工の関与が考えられ、天保5年(1834)の棟札が現在の隨身門の造営を示していると判断できる。江戸時代末期の姿を今に伝える貴重な建築物であり、中野市にとって貴重な文化財である。また、旧片山家住宅主屋(小内八幡神社社務所、国登録有形文化財)・小内八幡神社・小内八幡神社本殿(市指定有形文化財)・小内八幡神社社叢(市指定天然記念物)と一体的に保存・活用されるのが望ましいと思われる。

## 11 参考文献

信濃建築史研究室・吉澤政己『小内八幡神社 建築史資料調査報告書』(1994)

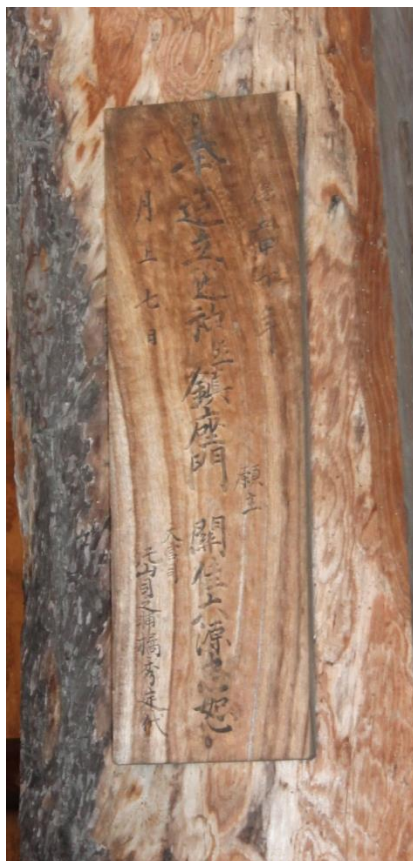
「旧中野県管内附綴六川庁管内 高井郡 神社明細帳原本」(長野県立歴史館所蔵)



小内八幡神社隨身門



小内八幡神社随身門（裏側）



棟札 (随神門内)